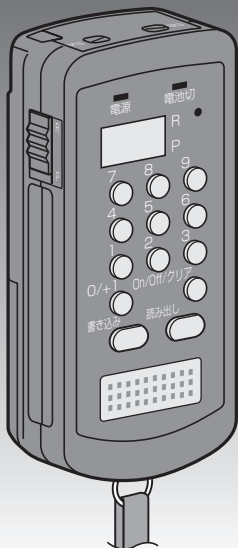


PX アドレス設定器

品番 NSY452

取扱説明書

保管用



- このたびは、日本ドライケミカル製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。ご使用前に「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- この取扱説明書は大切に保管してください。
- 万一、取扱説明書にしたがわず使用された場合の故障などについては責任を負い兼ねることがあります。

ご使用前に

- この商品は、当社の **[RX]** システム対応の感知器およびアイソレータ、アドレスアダプタ、発信機など、および **[PX]** シリーズ対応の感知器、発信機などのアドレス書き込み・アドレス読み出しをする機能を持っています。

（消防設備の施工をするには消防設備士（甲種第4類）の資格が必要です。また、点検を行うには、消防設備士（乙種第4類）または、消防設備点検資格第2種の資格が必要です。）

- この商品には、電池（別売）が必要です。

（単3アルカリ乾電池（1.5V）×4本
または単3ニカド電池（1.2V）×4本
または単3ニッケル水素電池（1.2V）
×4本をお買い求めください。）



Ni-Cd

ニカド電池は
リサイクルへ



Ni-MH

ニッケル水素電池
はリサイクルへ

この商品をご使用になる皆様へ

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や物的損害の程度を区分して、説明しています。

 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
 注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。 (次は図記号の例です。)

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

警告



禁止

電池は火に投入したり、ショートさせない。
爆発したり、やけど、火災になるおそれがあります。

注意



必ず守る

電池は極性に注意して表示どおりに入れる。
極性を間違えると、電池の破裂や液もれの原因となります。

電池を交換する際は、4本とも新しい電池と交換する。

新しい電池と古い電池を混ぜて使用すると、
電池の破裂や液もれの原因となります。

《ニカド電池・ニッケル水素電池 取り扱い上のご注意》

注意



禁止

●電池は絶対に分解しない。

電解液は強アルカリ性ですので、皮膚や衣類を
いためたりします。

●交換した電池は、火中に投入しない。

電池が破裂する場合があります、危険です。
電池はリサイクルに協力してください。

使用上のご注意

- ぬれた手でアドレス設定器をさわったり、水をかけないでください。故障の原因になります。
- 機器を分解したり、修理・改造しないでください。また落下させたり、衝撃を与えるような取り扱いをしないでください。故障の原因になります。
- 各端末機器(感知器など)は、工場出荷時にアドレス番号が書き込まれていません。工場出荷状態の端末機器のアドレス読み出しを行った場合、読み出し完了音「ピー」は鳴動しますが、液晶表示部にアドレス番号は表示されません。
- アドレス番号の書き込み・読み出し中は、液晶表示部に --- が表示されます。このとき、On/Off/クリアボタン以外のボタンを押しても動作しません。
- クリップコードまたは中継器用コードを取り付けたり、はずしたりするときは端子部またはコネクタの根元を持って作業してください。リード線部を引っ張ったりすると端子部の破損、リード線の断線が発生するおそれがあります。
- 電池の交換時は、必ず4本とも新しい電池と交換してください。
- アルカリ電池とニカド電池とニッケル水素電池の混合使用はしないでください。
- 長期間、使用しないときは必ず電池を取りはずして保管してください。電池の漏液のおそれがあります。
- 車など日光が当たり高温になる場所には放置しないでください。

もくじ

1. 各部のなまえとはたらき	2
2. お手入れ方法	3
3. 電池について	4~5
●電池の取付方法	4
●電池の交換時期について	5
4. アドレス書き込み・読み出しをする前に 必ずお読みください。	6~7
5. アドレス書き込みの方法	8~26
6. アドレス読み出しの方法	27~44
7. 設置した端末機器のアドレス番号を 変更するとき	45
8. 異常時の点検・処置	46~47
9. 定格・仕様	48

1.各部のなまえとはたらき



付属品

- 取扱説明書(本紙).....1冊
- クリップコード.....1本
- 中継器用コード.....1本
- PXシリーズ対応
アダプタ.....1コ
- 収納袋.....1コ

2.お手入れ方法

■表面が汚れた場合は、次の方法でお手入れください。

●ふだんのおそうじは…

やわらかい布でふき取ってください。

●汚れが目立つときは

中性洗剤を薄めた液にやわらかい布を浸し、
固く絞ってふき取ってください。

〔化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書〕
にしがってください。



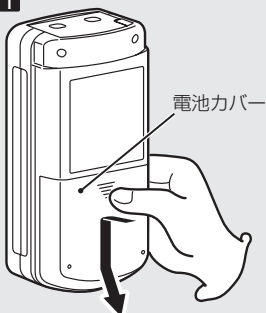
ベンジンなどは引火性があるため危険ですので、
使用しないでください。



3.電池について

■電池の取付方法

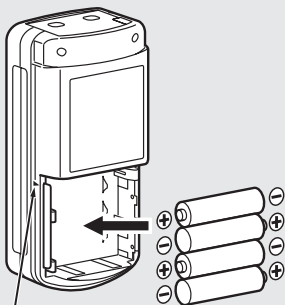
1



押しながら、下へさげてははずす。

1 電池カバーをはずす。

2



位置合わせマーク

2 電池を取り付ける。



注 電池の $\oplus$ 極、 $\ominus$ 極を間違わないようにしてください。

3 電池カバーを取り付ける。

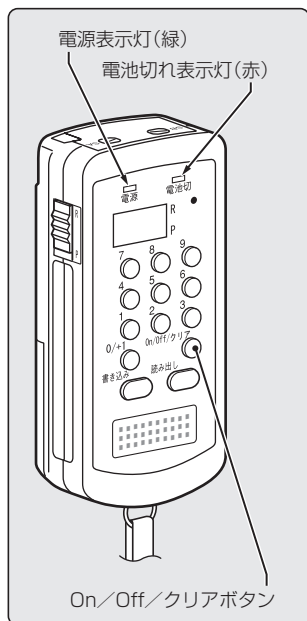


注 位置合わせマークに電池カバーの端を合わせてから、電池カバーがパチンと音がするまで、上へあげてください。

お願い事項

- ニカド電池、ニッケル水素電池はリサイクル可能な貴重な資源です。ご使用済の電池は捨てないで、リサイクルへご協力ください。
- ニカド電池、ニッケル水素電池には寿命があります。使用開始日から3～5年をめやすに交換してください。
- アルカリ電池とニカド電池、ニッケル水素電池の混合使用はしないでください。

電池の交換時期について



- 1** On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

- 電源表示灯が点灯します。

- 2** 電池切れ表示灯が点灯した場合、下記のようにしてください。

アルカリ電池の場合

- 電池の寿命です。4本とも新しい電池と交換してください。

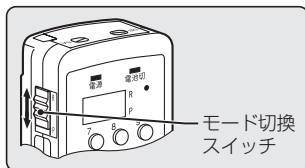
ニカド電池、ニッケル水素電池の場合

- 電池の充電不足です。4本とも充電して、取り付けてください。充電しても、電池切れ表示灯が点灯する場合は、4本とも新しい電池と交換してください。

4.アドレスの書き込み・読み出しをする前に必ずお読みください。

取り扱いのご注意

- 接続する端末機器(感知器など)を落下させないでください。
正常に機能しない場合があります。
- 電池切れ表示灯(赤)が点灯していないことを確認してください。
- 電源ONのままで、約2分間操作せずに放置すると、自動的にすべての表示が消灯します。再度、使用するときはOn/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源を入れ直してください。
- 使用するモード(RモードまたはPモード)を電源をONする前に選択してください。
電源ON後はモード変更を行えません。
モード変更を行う場合は、一度電源をOFFし、モード切換スイッチを操作後、再度電源をONにしてください。



アドレス書き込み時のご注意

- 各端末機器(感知器など)のアドレスの書き込みは、**[PX]**アドレス設定器と端末機器を1対1で行ってください。
- システムの配線に複数の端末機器が接続されている状態のままでアドレスの書き込みを行うと、正常にアドレスの書き込みができません。また、接続されている端末機器の書き込み済みのアドレスが書き変わってしまうおそれがあり、受信機と各端末機器との通信が正常に行われなくなるおそれがあります。

アドレス読み出し時のご注意

- 各端末機器(感知器など)のアドレスの読み出しは、**[PX]**アドレス設定器と端末機器を1対1で行ってください。
- システムの配線に複数の端末機器が接続されている状態のままでアドレスの読み出しを行うと、正常にアドレスを読み出せなくなり対象としない端末機器のアドレスを読み出すおそれがあります。また、受信機と各端末機器との通信が正常に行われなくなるおそれがあります。

■アドレス書き込み時・アドレス読み出し時のモード表

モード	Rモード		Pモード
対応機種	[RX] システム 対応	遠隔試験 機能付	[PX] シリーズ 対応



モード選択を間違えて、アドレス書き込み・アドレス読み出しの操作をした場合、液晶表示部に**[Err]**が表示され、ピピピ音が鳴ります。

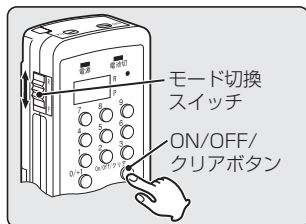
5.アドレス書き込みの方法

■電池を取り付けてください。(参照▶4ページ)

1 モード切換スイッチでRモード・Pモードを選択する。

2 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

- 電源表示灯(緑)が点灯します。
- 液晶表示部に **888** が約0.5秒間点灯し、その後 **---** を表示して書き込みができる状態になります。

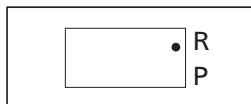


3 アドレスを書き込む。



- (ドット)によりモードを確認したあと、アドレスを書き込んでください。

■図はRモードの場合



- 0/+1ボタンを押すことにより、液晶表示部に表示されているアドレスを+1することができます。
- 入力できるアドレスは下記になります。
 - ・Rモード：1から255までです。
 - ・Pモード：1から64までです。
- Rモードの場合は256以上、Pモードの場合は65以上のアドレスを入力すると、ピピピ音が鳴り、液晶表示部に **---** が表示され、再度アドレスを入力できる状態になります。

アドレスを書き込む前に

1. 書き込む前には、必ずモードおよびアドレスが正しいことを確認してください。
2. 各端末機器(感知器など)に貼り付けてあるアドレス番号記入部にアドレス番号を記入してください。

アドレスの書き込み例

- A** 感知器のアドレスを書き込む場合……………参照▶10～13ページ
- B** 発信機のアドレスを書き込む場合……………参照▶14・15ページ
- C** 総合盤のアドレスを書き込む場合……………参照▶16・17ページ
- D** アイソレータのアドレスを書き込む場合……………参照▶18・19ページ
- E** アドレスアダプタ・防水型感知器・
光電式分離型感知器・感知器(小型タイプ)
のアドレスを書き込む場合……………参照▶20～23ページ
- F** 中継器のアドレスを書き込む場合……………参照▶24・25ページ

※上記以外の端末機器にアドレスを書き込む場合は、その端末機器に添付の説明書を参照してください。

5. アドレス書き込みの方法

A 感知器のアドレスを書き込む場合

[RX]システム対応(Rモード)の場合

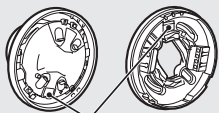


防水型感知器・光電式分離型感知器・感知器(小型タイプ)のアドレス書き込みの方法は20・21ページを参照してください。

1

感知器

感知器ベース



アドレス番号シール

2



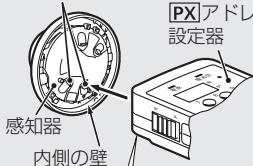
モード切換
スイッチ

ON/OFF/
クリアボタン

3

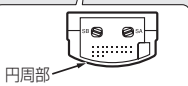
SA・SB端子

[PX]アドレス
設定器



感知器

内側の壁



円周部

- 感知器の内側の壁に[PX]アドレス設定器裏側の円周部を合わせて、差し込んでください。

1

書き込むアドレス番号を感知器のアドレス番号シールに記入する。

- 感知器ベースにもアドレス番号シールが貼り付けてありますので、必ずアドレス番号を記入してください。

2

Rモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

- モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

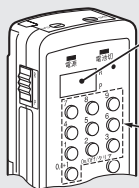
3

[PX]アドレス設定器のSA・SB端子に感知器のSA・SB端子を直接、差し込む。



感知器を落下させないように、感知器を指で支えるなどの配慮をしてください。

4



液晶表示部

●アドレス番号
およびモード
を表示します。アドレス
設定ボタン

5

書き込みボタン



7

ON/OFF/
クリアボタン

4 アドレス設定ボタンで書き込むアドレス番号を押す。

- 液晶表示部に書き込むアドレス番号が表示されます。

5 書き込みボタンを押す。

- 液晶表示部が **---** に変わり、2秒～6秒後にピー音が鳴り、書き込んだアドレス番号を表示します。

1で記入したアドレス番号と一致しているか確認してください。



接触不良などで正常に書き込みができなかった場合は、液晶表示部が **Err** 表示になり、ピピピ音が鳴ります。感知器をはずして再度、3の操作から行ってください。

6 感知器をPXアドレス設定器から取りはずす。

7 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

- OFF**表示後、ピッ音が鳴り、画面表示が消えます。

アドレス番号を間違えた場合

●参照▶26ページ

5. アドレス書き込みの方法

PXシリーズ対応(Pモード)の場合

遠隔試験機能付(Rモード)の場合



防水型感知器のアドレス書き込みの方法は22・23ページを参照してください。



図はPXシリーズ対応の感知器の場合を示します。

1 書き込むアドレス番号を感知器のアドレス番号シールに記入する。

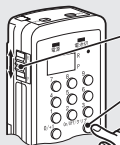
1

感知器

アドレス
番号シール



2



モード切換
スイッチ

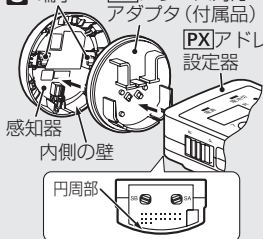
ON/OFF/
クリアボタン

3

端子

PXシリーズ対応
アダプタ(付属品)

PXアドレス
設定器



- PXシリーズ対応アダプタ(付属)の接続端子とPXアドレス設定器が確実に接触するようにPXシリーズ対応アダプタ(付属)を差し込んでください。
- PXシリーズ対応アダプタ(付属)の端子バネと感知器の端子が確実に接触するように感知器を接続してください。

2 PモードまたはRモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

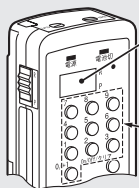
- モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

3 PXシリーズ対応アダプタ(付属)をPXアドレス設定器に取り付け、アダプタの端子バネに感知器を接続する。



感知器を落下させないように、感知器を指で支えるなどの配慮をしてください。

4



液晶表示部

●アドレス番号
およびモード
を表示します。アドレス
設定ボタン

5

書き込みボタン



7

ON/OFF/
クリアボタン

4 アドレス設定ボタンで書き込むアドレス番号を押す。

- 液晶表示部に書き込むアドレス番号が表示されます。

5 書き込みボタンを押す。

- 液晶表示部が **---** に変わり、3秒～10秒後 (**PX** シリーズ対応の場合) または、2秒～6秒後 (遠隔試験機能付の場合) にピー音が鳴り、書き込んだアドレス番号を表示します。1で記入したアドレス番号と一致しているか確認してください。



接触不良などで正常に書き込みができなかった場合は、液晶表示部が **Err** 表示になり、ピピピ音が鳴ります。感知器をはずして再度、3の操作から行ってください。

6 感知器を**PX**アドレス設定器から取りはずす。

7 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

- OFF** 表示後、ピップ音が鳴り、画面表示が消えます。

アドレス番号を間違えた場合

●参照➡26ページ

5. アドレス書き込みの方法

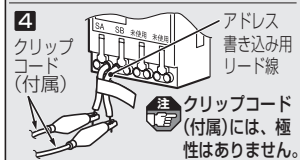
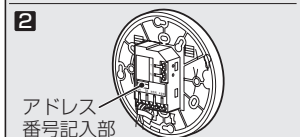
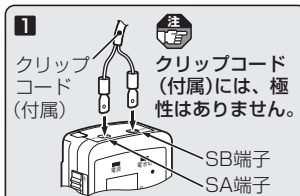
B 発信機のアドレスを書き込む場合

[RX] システム対応(Rモード)の場合

[PX] シリーズ対応(Pモード)の場合

注 図は[RX]システム対応の発信機の場合を示します。

注 発信機にはアドレス書き込み用リード線が、出荷時に接続されています。書き込んだあとは、書き込み用リード線を取りはずしてください。



●[PX]シリーズ対応の発信機の場合、SA・SB端子は、L・C端子になります。

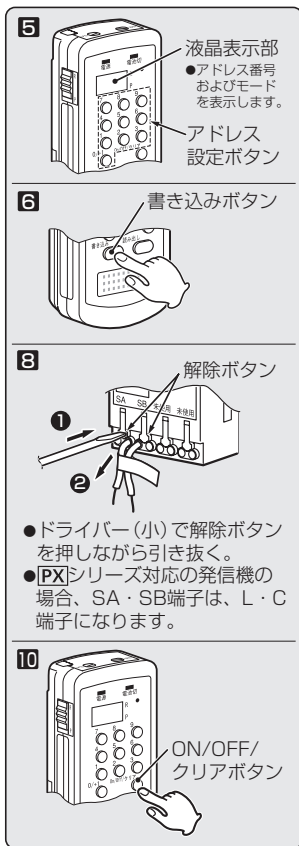
1 [PX]アドレス設定器のSA・SB端子にクリップコード (付属)の端子側を差し込む。

2 書き込むアドレス番号を発信機のアドレス番号記入部に記入する。

3 RモードまたはPモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

●モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

4 クリップコード(付属)のクリップ側を発信機のアドレス書き込み用リード線に接続する。



5 アドレス設定ボタンで書き込むアドレス番号を押す。

- 液晶表示部に書き込むアドレス番号が表示されます。

6 書き込みボタンを押す。

- 液晶表示部が **---** に変わり、2秒～6秒後 (**RX** システム対応の場合) または、3秒～10秒後 (**PX** シリーズ対応の場合) にピー音が鳴り、書き込んだアドレス番号を表示します。**2** で記入したアドレス番号と一致しているか確認してください。



注 接触不良などで正常に書き込みができなかった場合は、液晶表示部が **Err** 表示になり、ピピピ音が鳴ります。クリップをはずして再度、**4** の操作から行ってください。

7 クリップコード(付属)を発信機から取りはずす。

8 発信機のアドレス書き込み用リード線をはずす。

9 クリップコード(付属)をPXアドレス設定器から取りはずす。

10 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

- OFF** 表示後、ピー音が鳴り、画面表示が消えます。

アドレス番号を間違えた場合

●参照➡26ページ

5. アドレス書き込みの方法

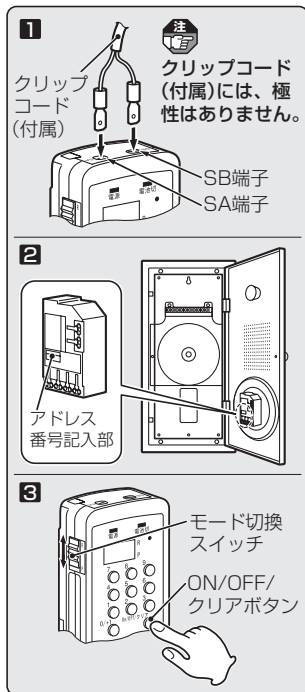
C 総合盤のアドレスを書き込む場合

[RX]システム対応(Rモード)の場合

[PX]シリーズ対応(Pモード)の場合

注 図は**[RX]**システム対応の総合盤の場合を示します。

注 総合盤に内蔵の発信機のSA・SB端子(**[RX]**システム対応の場合)またはL・C端子(**[PX]**シリーズ対応の場合)はあらかじめ総合盤内の端子台と接続されています。発信機にアドレス番号を書き込む場合は、総合盤の配線をする前の端子台のSA・SB端子(**[RX]**システム対応の場合)またはL・C端子(**[PX]**シリーズ対応の場合)で行ってください。



1 **[PX]**アドレス設定器のSA・SB端子にクリップコード(付属)の端子側を差し込む。

2 総合盤の扉をあけ、書き込むアドレス番号を発信機のアドレス番号記入部に記入する。

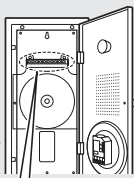
3 RモードまたはPモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

- モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

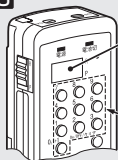
4



クリップコード
(付属)には、極
性はありません。



5



液晶表示部

●アドレス番号
およびアドレス
を表示します。

アドレス
設定ボタン

6

書き込みボタン



10



ON/OFF/
クリアボタン



受信機などと結線をした状態で、アドレス
書き込みを行うと正常にアドレス書き込み
ができず、システム異常になります。

4 クリップコード(付属)のクリップ側を総
合盤の端子台のSA・SB端子(**RX**)シス
テム対応の場合)またはL・C端子(**PX**
シリーズ対応の場合)に接続する。

5 アドレス設定ボタンで書き込
むアドレス番号を押す。

●液晶表示部に書き込むアドレス番号
が表示されます。

6 書き込みボタンを押す。

●液晶表示部が **---** に変わり、2秒～
6秒後(**RX**システム対応の場合)また
は、3秒～10秒後(**PX**シリーズ対応の
場合)にピー音が鳴り、書き込んだアド
レス番号を表示します。**2**で記入した
アドレス番号と一致しているか確認し
てください。



接触不良などで正常に書き込みができなかつ
た場合は、液晶表示部が **Err** 表示になり、
ピピピ音が鳴ります。クリップをはずして再
度、**4**の操作から行ってください。

7 クリップコード(付属)を総合
盤から取りはずす。

8 総合盤の扉をしめる。

9 クリップコード(付属)を**PX**ア
ドレス設定器から取りはずす。

10 On/Off/クリアボタンを約2
秒間押し、電源をOFFにする。

●**OFF**表示後、ピー音が鳴り、
画面表示が消えます。

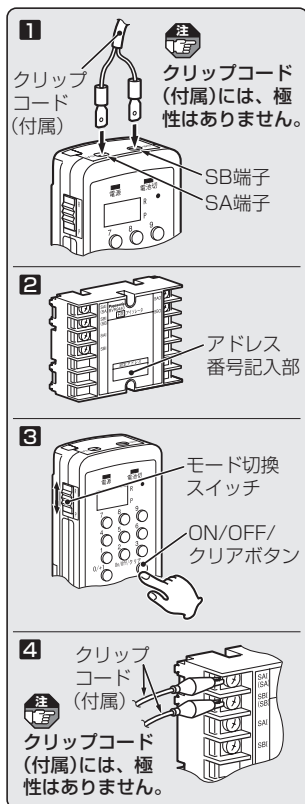
アドレス番号を間違えた場合

●参照>26ページ

5. アドレス書き込みの方法

D アイソレータのアドレスを書き込む場合

[RX] システム対応(Rモード)の場合



1 [PX] アドレス設定器のSA・SB端子にクリップコード (付属)の端子側を差し込む。

2 書き込むアドレス番号をアイソレータのアドレス番号記入部に記入する。

3 Rモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

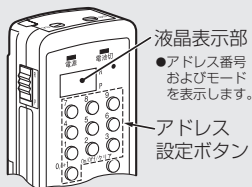
- モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

4 クリップコード(付属)のクリップ側をアイソレータのSAI(SA)・SBI(SB)端子に接続する。



受信機などと結線をした状態で、アドレス書き込みを行うと正常にアドレス書き込みができず、システム異常になります。

5



6



5 アドレス設定ボタンで書き込むアドレス番号を押す。

- 液晶表示部に書き込むアドレス番号が表示されます。

6 書き込みボタンを押す。

- 液晶表示部が **---** に変わり、2秒～6秒後にピー音が鳴り、書き込んだアドレス番号を表示します。**2** で記入したアドレス番号と一致しているか確認してください。



接触不良などで正常に書き込みができなかった場合は、液晶表示部が **Err** 表示になり、ピピピ音が鳴ります。クリップをはずして再度、**4** の操作から行ってください。

7 クリップコード(付属)をアイソレータから取りはずす。

8 クリップコード(付属)を **PX** アドレス設定器から取りはずす。

9 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

- OFF** 表示後、ピッ音が鳴り、画面表示が消えます。

9



アドレス番号を間違えた場合

●参照➡26ページ

5. アドレス書き込みの方法

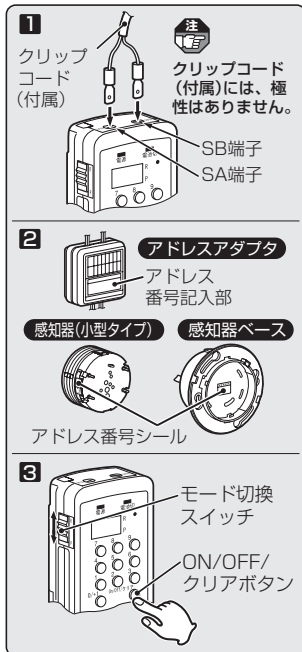
■ アドレスアダプタ・防水型感知器・光電式分離型感知器・感知器(小型タイプ)のアドレスを書き込む場合

[RX] システム対応(Rモード)の場合

遠隔試験機能付(Rモード)の場合

注 図は**[RX]**システム対応のアドレスアダプタ、感知器(小型タイプ)の場合を示します。

1 **[PX]** アドレス設定器のSA・SB端子にクリップコード(付属)の端子側を差し込む。



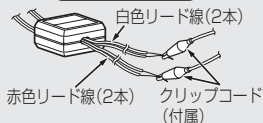
2 書き込むアドレス番号を端末機器のアドレス番号記入部に記入する。または、感知器(小型タイプ)のアドレス番号シールに記入する。

● 感知器ベースにもアドレス番号シールが貼り付けてありますので、必ずアドレス番号を記入してください。

3 Rモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

● モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

4 アドレスアダプタ



感知器(小型タイプ)



注 クリップコード(付属)には、極性はありません。



受信機などと結線をした状態で、アドレス書き込みを行うと正常にアドレス書き込みができず、システム異常になります。

- 4** クリップコード(付属)のクリップ側を端末機器のSA(赤色リード線(2本))・SB(白色リード線(2本))に接続する。または、感知器(小型タイプ)のSA・SB端子に接続する。

※遠隔試験機能付感知器の防水型感知器についてはL(赤色リード線(2本))・C(白色リード線(2本))に接続する。



光電式分離型感知器の場合は、監視モード(モードスイッチA、Bとも「上」側)に設定してから**5**の操作をしてください。

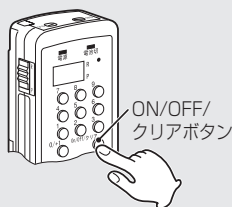
5



6



9



- 5** アドレス設定ボタンで書き込むアドレス番号を押す。

●液晶表示部に書き込むアドレス番号が表示されます。

- 6** 書き込みボタンを押す。

●液晶表示部が **---** に変わり、2秒～6秒後にピー音が鳴り、書き込んだアドレス番号を表示します。**2**で記入したアドレス番号と一致しているか確認してください。



接触不良などで正常に書き込みができなかった場合は、液晶表示部が **Err** 表示になり、ピピピ音が鳴ります。クリップをはずして再度、**4**の操作から行ってください。

- 7** クリップコード(付属)を端末機器から取りはずす。

- 8** クリップコード(付属)を **PX** アドレス設定器から取りはずす。

- 9** On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

●**OFF**表示後、ピー音が鳴り、画面表示が消えます。

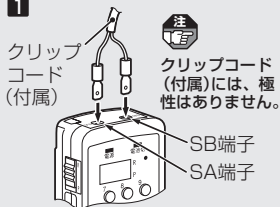
アドレス番号を間違えた場合

●参照>26ページ

5. アドレス書き込みの方法

[PX] シリーズ対応(Pモード)の場合

1



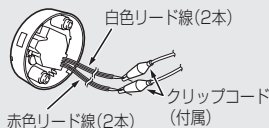
2



3



4



1

[PX] アドレス設定器のSA・SB端子にクリップコード (付属)の端子側を差し込む。

2

書き込むアドレス番号を感知器のアドレス番号記入部に記入する。

3

Pモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

- モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

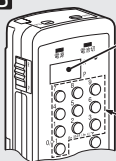
4

クリップコード (付属)のクリップ側を感知器のL(赤色リード線(2本))・C(白色リード線(2本))に接続する。



受信機などと結線をした状態で、アドレス書き込みを行うと正常にアドレス書き込みができず、システム異常になります。

5



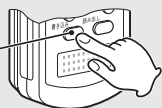
液晶表示部

●アドレス番号
およびモード
を表示します。

アドレス
設定ボタン

6

書き込み
ボタン



5 アドレス設定ボタンで書き込む アドレス番号を押す。

- 液晶表示部に書き込むアドレス番号が表示されます。

6 書き込みボタンを押す。

- 液晶表示部が **---** に変わり、3秒～10秒後にピー音が鳴り、書き込んだアドレス番号を表示します。

2で記入したアドレス番号と一致しているか確認してください。



接触不良などで正常に書き込みができなかった場合は、液晶表示部が **Err** 表示になり、ピピピ音が鳴ります。クリップをはずして再度、4の操作から行ってください。

7 クリップコード(付属)を感知器から取りはずす。

8 クリップコード(付属)を **PX** アドレス設定器から取りはずす。

9 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

- OFF** 表示後、ピッ音が鳴り、画面表示が消えます。

9



ON/OFF/
クリアボタン

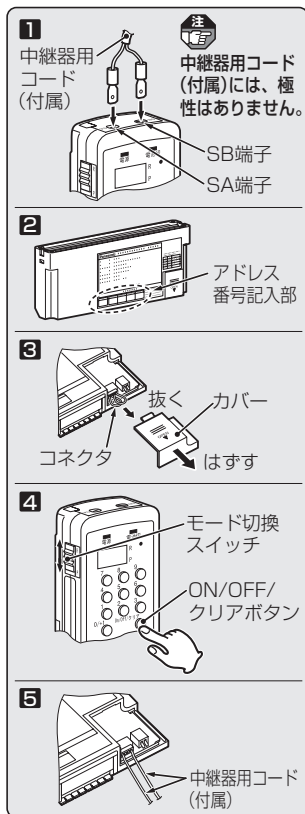
アドレス番号を間違えた場合

●参照>26ページ

5. アドレス書き込みの方法

F 中継器のアドレスを書き込む場合 ——

[RX]システム対応(Rモード)の場合



1 **[PX]**アドレス設定器のSA・SB端子に中継器用コード(付属)の端子側を差し込む。

2 書き込むアドレス番号を中継器のアドレス番号記入部に記入する。

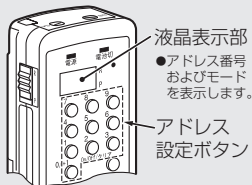
3 中継器のカバーをはずし、コネクタを抜く。

4 Rモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

- モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

5 中継器用コード(付属)のコネクタ側を中継器のコネクタ部に接続する。

6



7

書き込みボタン



11



6 アドレス設定ボタンで書き込むアドレス番号を押す。

- 液晶表示部に書き込むアドレス番号が表示されます。

7 書き込みボタンを押す。

- 液晶表示部が **---** に変わり、2秒～6秒後にピー音が鳴り、書き込んだアドレス番号を表示します。
- 2で記入したアドレス番号と一致しているか確認してください。



接触不良などで正常に書き込みができなかった場合は、液晶表示部が **Err** 表示になり、ピピピ音が鳴ります。コネクタをはずして再度、5の操作から行ってください。

8 中継器用コード(付属)のコネクタを中継器から取りはずす。

9 中継器のコネクタを差し込み、カバーを取り付ける。

10 中継器用コード(付属)を **PX** アドレス設定器から取りはずす。

11 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

- **OFF** 表示後、ピー音が鳴り、画面表示が消えます。

アドレス番号を間違えた場合

●参照➡26ページ

5. アドレス書き込みの方法

■書き込んだアドレス番号を確認する場合——

アドレス読み出しを行ってください。(参照▶27～44ページ)

■アドレス番号を間違えた場合——

アドレス設定ボタンを押し間違えた場合

- On/Off/クリアボタンを押したあと、設定するアドレス番号を再度、アドレス設定ボタンで押してください。

アドレス番号を間違えて書き込んでしまった場合

- 正しいアドレス番号を再度、書き込んでください。
最後に書き込んだアドレス番号に書き変わります。

■アドレス書き込みを中止したい場合——

- On/Off/クリアボタンを押してください。

表示になりピピピ音が鳴ります。

再度、On/Off/クリアボタンを押すと、

が表示され、書き込みができる状態になります。



モードが正しく選択されており、液晶表示部にが表示されている場合は、液晶表示部にアドレスが表示されるまで操作できません。

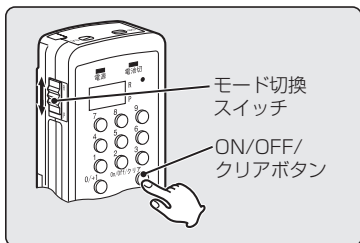
6. アドレス読み出しの方法

■電池を取り付けてください。(参照)4ページ)

1 モード切換スイッチでRモード・Pモードを選択する。

2 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

- 電源表示灯(緑)が点灯します。
- 液晶表示部に「888」が約0.5秒間点灯し、その後「---」を表示して読み出しができる状態になります。



3 アドレスを読み出す。



アドレスを読み出す前に、必ずモードが正しいことを確認してください。

アドレスの読み出し例

- A 感知器のアドレスを読み出す場合……………参照)28～31ページ
- B 発信機のアドレスを読み出す場合……………参照)32・33ページ
- C 総合盤のアドレスを読み出す場合……………参照)34・35ページ
- D アイソレータのアドレスを読み出す場合……………参照)36・37ページ
- E アドレスアダプタ・防水型感知器・
光電式分離型感知器・感知器(小型タイプ)
のアドレスを読み出す場合……………参照)38～41ページ
- F 中継器のアドレスを読み出す場合……………参照)42・43ページ

※上記以外の端末機器のアドレスを読み出す場合は、その端末機器に添付の説明書を参照してください。

6.アドレス読み出しの方法

A 感知器のアドレスを読み出す場合

[RX]システム対応(Rモード)の場合



防水型感知器・光電式分離型感知器・感知器(小型タイプ)のアドレス読み出しの方法は38・39ページを参照してください。

2

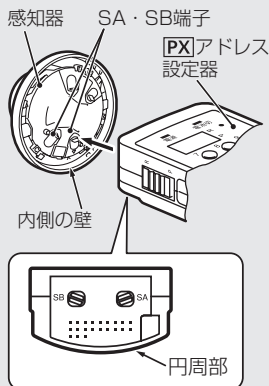


1 感知器ベースに取り付けられている感知器を取りはずす。

2 Rモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

- モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

3



3 [PX]アドレス設定器のSA・SB端子に感知器のSA・SB端子を直接、差し込む。



感知器を落下させないように、感知器を指で支えるなどの配慮をしてください。

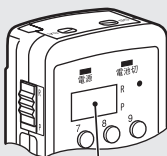
- 感知器の内側の壁に[PX]アドレス設定器裏側の円周部を合わせて、差し込んでください。

4

読み出しボタン



5



液晶表示部

●アドレス番号およびモードを表示します。

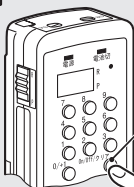
感知器

感知器ベース



アドレス番号シール

7

ON/OFF/
クリアボタン

4 読み出しボタンを押す。

- 液晶表示部が **---** に変わり、2秒～6秒後にピー音が鳴り、読み出したアドレス番号を表示します。



接触不良などで正常に読み出しができなかった場合は、液晶表示部が **Err** 表示になり、ピピピ音が鳴ります。感知器をはずして再度、**3**の操作から行ってください。

5 液晶表示部のアドレス番号と感知器および感知器ベースのアドレス番号シールの数字が一致しているか確認する。



アドレス番号が一致していない場合は、再度、アドレス番号を書き込んでください。
(参照) 10・11ページ

6 感知器をPXアドレス設定器から取りはずし、取り付けられていた感知器ベースに取り付ける。

7 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

- OFF** 表示後、ピッ音が鳴り、画面表示が消えます。

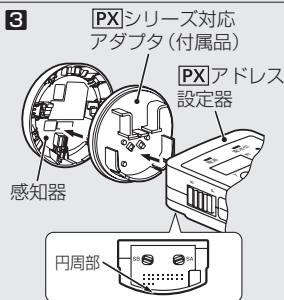
6. アドレス読み出しの方法

[PX]シリーズ対応(Pモード)の場合

遠隔試験機能付(Rモード)の場合

注 防水型感知器のアドレス読み出しの方法は40・41ページを参照してください。

注 図は[PX]シリーズ対応の感知器の場合を示します。



- [PX]シリーズ対応アダプタ(付属)の接続端子と[PX]アドレス設定器が確実に接触するように[PX]シリーズ対応アダプタ(付属)を差し込んでください。
- [PX]シリーズ対応アダプタ(付属)の端子バネと感知器の端子が確実に接触するように感知器を接続してください。

1 感知器ベースに取り付けられている感知器を取りはずす。

2 PモードまたはRモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

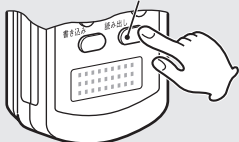
- モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

3 [PX]シリーズ対応アダプタ(付属)を[PX]アドレス設定器に取り付け、アダプタの端子バネに感知器を接続する。

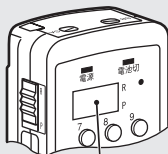
注 感知器を落下させないように、感知器を指で支えるなどの配慮をしてください。

4

読み出しボタン



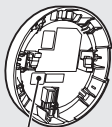
5



液晶表示部

●アドレス番号を表示します。

感知器



アドレス番号シール

7

ON/OFF/
クリアボタン

4 読み出しボタンを押す。

- 液晶表示部が **---** に変わり、3秒～10秒後(**PX**シリーズ対応の場合)または2秒～6秒後(遠隔試験機能付の場合)にピー音が鳴り、読み出したアドレス番号を表示します。



接触不良などで正常に読み出しができなかった場合は、液晶表示部が **Err** 表示になり、ピピピ音が鳴ります。感知器をはずして再度、**3**の操作から行ってください。

5 液晶表示部のアドレス番号と感知器のアドレス番号シールの数字が一致しているか確認する。



アドレス番号が一致していない場合は、再度、アドレス番号を書き込んでください。
(参照▶12・13ページ)

6 感知器を**PX**アドレス設定器から取りはずし、取り付けられていた感知器ベースに取り付ける。

7 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

- OFF**表示後、ピッ音が鳴り、画面表示が消えます。

6. アドレス読み出しの方法

B 発信機のアドレスを読み出す場合

[RX] システム対応(Rモード)の場合

[PX] シリーズ対応(Pモード)の場合

注 図は **[RX]** システム対応の発信機の場合を示します。

1 **[PX]** アドレス設定器のSA・SB端子にクリップコード(付属)の端子側を差し込む。

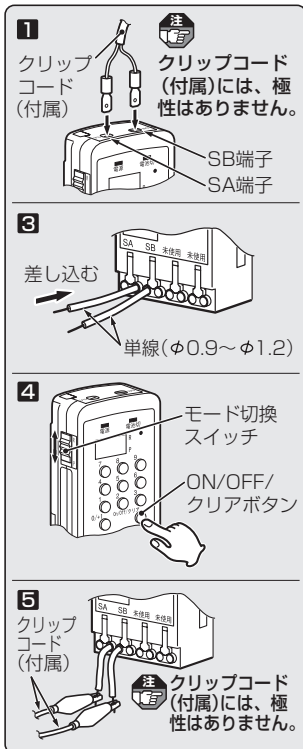
2 発信機のSA・SB端子(**[RX]** システム対応の場合)または、L・C端子(**[PX]** シリーズ対応の場合)に接続されているすべての配線を取りはずす。

3 発信機のSA・SB端子(**[RX]** システム対応の場合)または、L・C端子(**[PX]** シリーズ対応の場合)のどちらか一方に $\phi 0.9 \sim \phi 1.2$ の単線を差し込む。

4 RモードまたはPモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

- モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

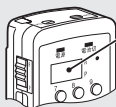
5 クリップコード(付属)のクリップ側を**3**で取り付けした単線に接続する。



6

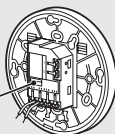
読み出し
ボタン

7

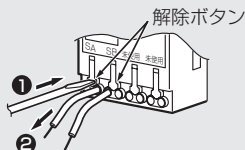


液晶表示部

●アドレス番号
およびモード
を表示します。

アドレス
番号記入部

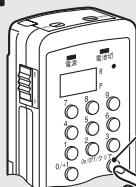
8



解除ボタン

- ⊖ドライバー (小) で解除ボタンを押しながら引き抜く。

9

ON/OFF/
クリアボタン

6 読み出しボタンを押す。

- 液晶表示部が **---** に変わり、2秒～6秒後 (**RX** システム対応の場合) または、3秒～10秒後 (**PX** シリーズ対応の場合) にピー音が鳴り、読み出したアドレス番号を表示します。



接触不良などで正常に読み出しができなかった場合は、液晶表示部が **Err** 表示になり、ピピピ音が鳴ります。クリップをはずして再度、5の操作から行ってください。

7 液晶表示部のアドレス番号と発信機のアドレス番号記入部の数字が一致しているか確認する。



アドレス番号が一致していない場合は、再度、アドレス番号を書き込んでください。
(参照) 14・15ページ

8 3で発信機に取り付けた単線を取りはずし、2で取りはずした配線を元に戻す。



電線を軽く引っ張り、確実に差し込まれたことを確認してください。

9 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

- **OFF** 表示後、ピー音が鳴り、画面表示が消えます。

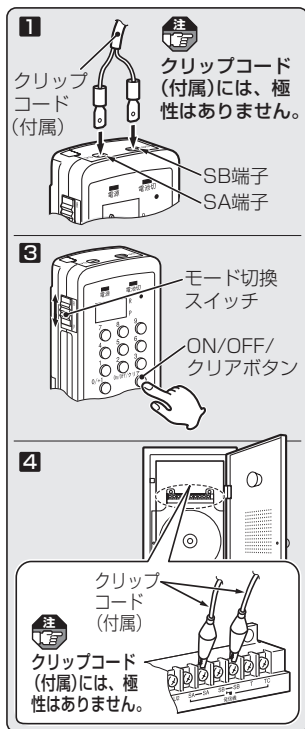
6. アドレス読み出しの方法

C 総合盤のアドレスを読み出す場合

[RX] システム対応(Rモード)の場合

[PX] シリーズ対応(Pモード)の場合

注 図は **[RX]** システム対応の総合盤の場合を示します。



1 **[PX]** アドレス設定器のSA・SB端子にクリップコード(付属)の端子側を差し込む。

2 総合盤のSA・SB端子(**[RX]**システム対応の場合)または、L・C端子(**[PX]**シリーズ対応の場合)に接続されているすべての配線を取りはずす。

注 内蔵されている発信機から総合盤の端子台に接続されている配線は、はずさないでください。

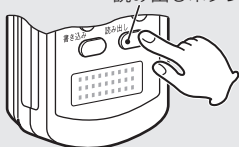
3 RモードまたはPモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

●モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

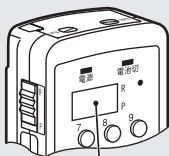
4 クリップコード(付属)のクリップ側を総合盤の端子台のSA・SB端子(**[RX]**システム対応の場合)または、L・C端子(**[PX]**シリーズ対応の場合)に接続する。

5

読み出しボタン

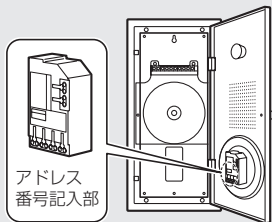


6

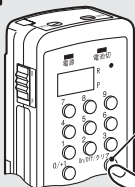


液晶表示部

●アドレス番号およびモードを表示します。

アドレス
番号記入部

8

ON/OFF/
クリアボタン

5 読み出しボタンを押す。

- 液晶表示部が **---** に変わり、2秒～6秒後 (**RX** システム対応の場合) または、3秒～10秒後 (**PX** シリーズ対応の場合) にピー音が鳴り、読み出したアドレス番号を表示します。



注 接触不良などで正常に読み出しができなかった場合は、液晶表示部が **E** 表示になり、ピピピ音が鳴ります。クリップをはずして再度、**4** の操作から行ってください。

6 液晶表示部のアドレス番号と総合盤に内蔵の発信機のアドレス番号記入部の数字が一致しているか確認する。



注 アドレス番号が一致していない場合は、再度、アドレス番号を書き込んでください。(参照>16・17ページ)

7 クリップコード(付属)を **PX** アドレス設定器および総合盤から取りはずし、**2** で取りはずした配線を元に戻す。

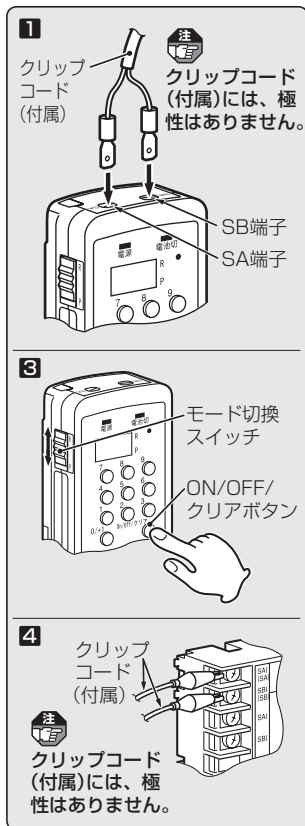
8 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

- **OFF** 表示後、ピー音が鳴り、画面表示が消えます。

6. アドレス読み出しの方法

D アイソレータのアドレスを読み出す場合

[RX]システム対応(Rモード)の場合



1 [PX]アドレス設定器のSA・SB端子にクリップコード(付属)の端子側を差し込む。

2 アイソレータのSAI(SA)・SBI(SB)・SA・SBに接続されているすべての配線を取りはずす。

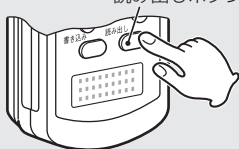
3 Rモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

- モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

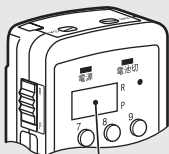
4 クリップコード(付属)のクリップ側をアイソレータのSBI(SA)・SBI(SB)端子に接続する。

5

読み出しボタン

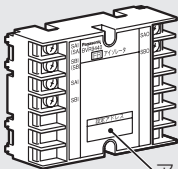


6

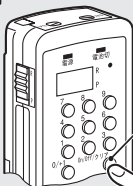


液晶表示部

●アドレス番号およびモードを表示します。

アドレス
番号記入部

8

ON/OFF/
クリアボタン

5 読み出しボタンを押す。

- 液晶表示部が **---** に変わり、2秒～6秒後にピー音が鳴り、読み出したアドレス番号を表示します。



接触不良などで正常に読み出しができなかった場合は、液晶表示部が **E** 表示になり、ピピピ音が鳴ります。クリップをはずして再度、

4の操作から行ってください。

6 液晶表示部のアドレス番号とアイソレータのアドレス番号記入部の数字が一致しているか確認する。



アドレス番号が一致していない場合は、再度、アドレス番号を書き込んでください。(参照▶18・19ページ)

7 クリップコード(付属)を **PX** アドレス設定器およびアイソレータから取りはずし、2で取りはずした配線を元に戻す。

8 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

- **OFF** 表示後、ピッ音が鳴り、画面表示が消えます。

6. アドレス読み出しの方法

E アドレスアダプタ・防水型感知器・光電式分離型感知器・感知器(小型タイプ)のアドレスを読み出す場合

RX システム対応(Rモード)の場合

遠隔試験機能付(Rモード)の場合

注 図は **RX** システム対応のアドレスアダプタ、感知器(小型タイプ)の場合を示します。

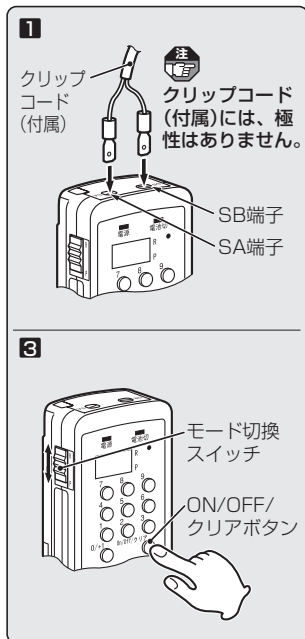
1 **PX** アドレス設定器のSA・SB端子にクリップコード(付属)の端子側を差し込む。

2 端末機器のSA(赤色リード線)・SB(白色リード線)に接続されているすべての配線を取りはずす。または、感知器ベースに取り付けられている感知器(小型タイプ)を取りはずす。

※遠隔試験機能付感知器の防水型感知器についてはL(赤色リード線(2本))・C(白色リード線(2本))を取りはずす。

3 Rモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

●モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。



4 アドレスアダプタ



感知器(小型タイプ)



クリップコード(付属)には、極性はありません。



光電式分離型感知器の場合は、監視モード(モードスイッチA、Bとも「上」側)に設定してから5の操作をしてください。

5



6



液晶表示部
●アドレス番号およびモードを表示します。

アドレスアダプタ



アドレス番号記入部

感知器(小型タイプ)

感知器ベース



アドレス番号シール



8



ON/OFF/クリアボタン

4 クリップコード(付属)のクリップ側を端末機器のSA(赤色リード線(2本))・SB(白色リード線(2本))に接続する。または、感知器(小型タイプ)のSA・SB端子に接続する。

※遠隔試験機能付感知器の防水型感知器についてはL(赤色リード線(2本))・C(白色リード線(2本))に接続する。

5 読み出しボタンを押す。

●液晶表示部が「---」に変わり、2秒～6秒後にピー音が鳴り、読み出したアドレス番号を表示します。



接触不良などで正常に読み出しができなかった場合は、液晶表示部が「Err」表示になり、ピピピ音が鳴ります。クリップをはずして再度、4の操作から行ってください。

6 液晶表示部のアドレス番号と端末機器のアドレス番号記入部または、感知器および感知器ベースのアドレス番号シールの数字が一致しているか確認する。



アドレス番号が一致していない場合は、再度、アドレス番号を書き込んでください。(参照>20・21ページ)

7 クリップコード(付属)を[PX]アドレス設定器および端末機器から取りはずし、2で取りはずした配線を元に戻す。または、取り付けられていた感知器ベースに取り付ける。



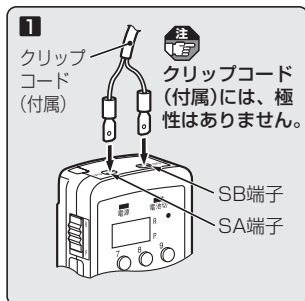
防水型感知器の場合、配線の防水処理をしてください。

8 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

●「OFF」表示後、ピー音が鳴り、画面表示が消えます。

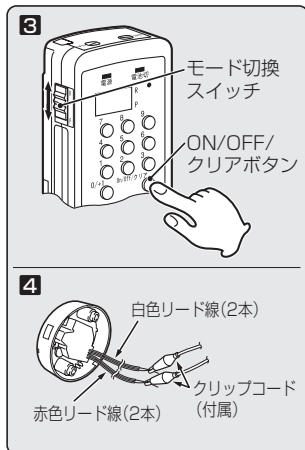
6.アドレス読み出しの方法

[PX]シリーズ対応(Pモード)の場合



1 [PX]アドレス設定器のSA・SB端子にクリップコード(付属)の端子側を差し込む。

2 感知器のL(赤色リード線)・C(白色リード線)に接続されているすべての配線を取りはずす。



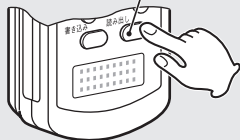
3 Pモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

- モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

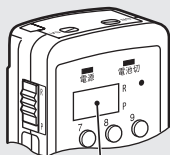
4 クリップコード(付属)のクリップ側を感知器のL(赤色リード線(2本))・C(白色リード線(2本))に接続する。

5

読み出しボタン



6



液晶表示部

●アドレス番号およびモードを表示します。

アドレス
番号記入部

5 読み出しボタンを押す。

- 液晶表示部が **---** に変わり、3秒～10秒後にピー音が鳴り、読み出したアドレス番号を表示します。



接触不良などで正常に読み出しができなかった場合は、液晶表示部が **Err** 表示になり、ピピピ音が鳴ります。クリップをはずして再度、4の操作から行ってください。

6 液晶表示部のアドレス番号と感知器のアドレス番号記入部数字が一致しているか確認する。



アドレス番号が一致していない場合は、再度、アドレス番号を書き込んでください。
(参照 22・23ページ)

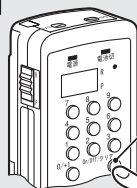
7 クリップコード(付属)を **PX** アドレス設定器および感知器から取りはずし、2で取りはずした配線を元に戻す。

配線の防水処理をしてください。

8 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

- OFF** 表示後、ピッ音が鳴り、画面表示が消えます。

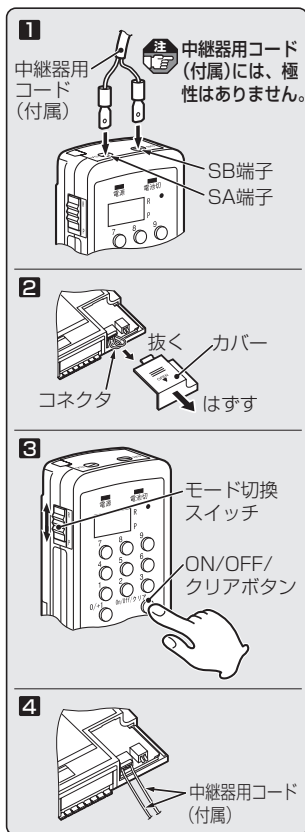
8

ON/OFF/
クリアボタン

6. アドレス読み出しの方法

F 中継器のアドレスを読み出す場合

[RX]システム対応(Rモード)の場合



1 **[PX]** アドレス設定器のSA・SB端子に中継器用コード (付属) の端子側を差し込む。

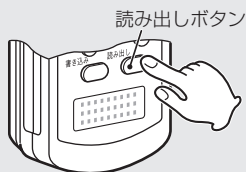
2 中継器のカバーをはずし、コネクタを抜く。

3 Rモードを選択後、On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をONにする。

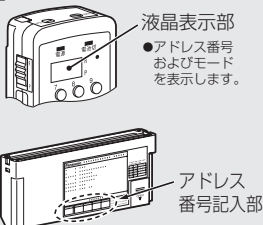
- モードが正しく選択されていることを確認してから電源をONにしてください。電源ON後にモード切換スイッチを操作してもモードは変更されません。

4 中継器用コードのコネクタ側を中継器のコネクタ部に接続する。

5



6



5 読み出しボタンを押す。

- 液晶表示部が **---** に変わり、2秒～6秒後にピー音が鳴り、読み出したアドレス番号を表示します。



- 注** 接触不良などで正常に読み出しができなかった場合は、液晶表示部が **Err** 表示になり、ピピピ音が鳴ります。コネクタをはずして再度、4の操作から行ってください。

6 液晶表示部のアドレス番号と中継器のアドレス番号記入部の数字が一致しているか確認する。



- 注** アドレス番号が一致していない場合は、再度、アドレス番号を書き込んでください。(参照) 24・25ページ

7 中継器用コード(付属)を[PX]アドレス設定器および中継器から取りはずす。

8 中継器のコネクタを差し込み、カバーを取り付ける。

9 On/Off/クリアボタンを約2秒間押し、電源をOFFにする。

- **OFF** 表示後、ピッ音が鳴り、画面表示が消えます。

9



6. アドレス読み出しの方法

■アドレス読み出しを中止したい場合——

- On/Off/クリアボタンを押してください。

 表示になりピピピ音が鳴ります。

再度、On/Off/クリアボタンを押すと、

 が表示され、読み出しができる状態になります。



モードが正しく選択されており、液晶表示部に  が表示されている場合は、液晶表示部にアドレス番号が表示されるまで操作できません。

7. 設置した端末機器のアドレス番号を変更するとき



- アドレス番号は最後に書き込んだアドレス番号に書き変わります。
- アドレス番号シールおよびアドレス番号記入部には、新しく書き込んだアドレス番号を記入してください。
- アドレス番号を変更するときは、端末機器(感知器など)を取りはずす必要があります。変更後は、端末機器の配線を必ず元の状態にしてください。

感知器の場合

- 1 感知器が取り付けられている感知器ベースから感知器を取りはずす。
- 2 新しいアドレス番号を書き込む。(参照)10～13ページ
(感知器(小型タイプ)の場合は、20・21ページ参照)

発信機の場合

- 1 SA・SB端子(**RX**システム対応の場合)または、L・C端子(**PX**シリーズ対応の場合)に接続されている配線をすべて取りはずし、単線(φ0.9～φ1.2)を差し込む。(参照)32ページ)
- 2 新しいアドレス番号を書き込む。(参照)14・15ページ)

総合盤の場合

- 1 端子台のSA・SB端子(**RX**システム対応の場合)または、L・C端子(**PX**シリーズ対応の場合)に接続されている配線をすべて取りはずす。
- 2 新しいアドレス番号を書き込む。(参照)16・17ページ)

アイソレータの場合

- 1 SAI(SA)・SBI(SB)・SA・SB端子に接続されている配線をすべて取りはずす。
- 2 新しいアドレス番号を書き込む。(参照)18・19ページ)

アドレスアダプタ・防水型感知器・光電式分離型感知器のリード線接続する機器の場合

- 1 SA(赤色リード線)・SB(白色リード線)(**RX**システム対応の場合)または、L(赤色リード線)・C(白色リード線)(**PX**シリーズ対応の場合)に接続されている配線をすべて取りはずす。
- 2 新しいアドレス番号を書き込む。(参照)20～23ページ)

中継器の場合

- 1 中継器のカバーをはずし、コネクタを抜く。
- 2 新しいアドレス番号を書き込む。(参照)24・25ページ)

8.異常時の点検・処置

●修理・サービスを依頼されるまえに、次の点検・処置をしてください。

状 態	点 検
On/Off/クリア ボタンを約2秒間 押しても電源表示 灯が点灯しない。	電池が正しく装着されているか？
	ニカド電池、ニッケル水素電池は充電されているか？
	電池は古くないか？
電池切れ表示灯が 点灯している。	ニカド電池、ニッケル水素電池は、充電されているか？
	電池は古くないか？
アドレスが書き込 めない。またはア ドレスが読み出せ ない。	モードは正しく選択されているか？
	感知器接続部に感知器が確実に接続されているか？
	発信機など複数の商品を接続したまま、アドレス の書き込み・読み出しをしていないか？
	クリップコード(付属)または中継器用コード(付属) または[PX]シリーズ対応アダプタ(付属)が端末機器 の端子に確実に接続されているか？
	クリップコード(付属)または中継器用コード(付属) または[PX]シリーズ対応アダプタ(付属)が破損して いないか？
	他の端末機器(感知器など)のアドレスの書き込み・ 読み出しができるか？
	光電式分離型感知器の場合、感知器本体のモード スイッチが監視モードに設定されているか？
読み出しボタンを押 しても液晶表示部に 何も表示されない。	工場出荷状態のままの端末機器(感知器など)のア ドレスを読み出していないか？

	処 置
	電池の極性を合わせる。(参照▶4・5ページ)
	充電する。
	新しい電池と交換する。(参照▶5ページ)
	充電する。
	新しい電池と交換する。(参照▶5ページ)
	一度、電源をOFFし、モード切換スイッチで正しいモードを選択したあと、再度電源をONにする。
	接続し直す。
	配線をはずし、1台ずつアドレスの書き込み・読み出しをしてください。
	接続し直す。
	新しいクリップコードまたは中継器用コードまたはPXシリーズ対応アダプタと交換する。
	端末機器(感知器など)の故障です。 端末機器を交換する。
	監視モード(モードスイッチA、Bとも「上」側)に設定する。
	左記の場合、液晶表示部にアドレス番号は表示されません。 アドレスを書き込んでください。(参照▶6～26ページ)

※これ以外の異常状態のときは、当社営業所に連絡してください。

9. 定格・仕様

電 源	単3アルカリ乾電池 (1.5V) × 4本 (別売) または 単3ニカド電池 (1.2V) × 4本 (別売) または 単3ニッケル水素電池 (1.2V) × 4本 (別売)
消 費 電 流	約100mA
電 池 寿 命	アドレス設定端末5000コ以上 (単3アルカリ乾電池使用時)
使用周囲温度	0℃～+40℃
質 量	約250g (単3アルカリ乾電池4本収納時)

[illegible]

This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

[illegible]

